

【参考資料 1】全大会の組織に関する特別委員会設立に関する審議 現時点での活動予定

1. 概要

現在の全大会は慢性的な人手不足という課題を抱えており、効率的な運営を行うことが難しくなっている。今年度、本会議での流会がすでに 3 回にのぼるなど、議決に関わる本会議でも人手不足が顕在化している。また、平成 33 年度より総合選抜が導入されるため、総合選抜による入学者のクラス代表者会議の方針や座長団の選出方法に関しても検討を行う必要がある。

この状況を鑑み、全大会の運営方式に関して多面的に考えていくために、全大会の組織に関する特別委員会を設立することを提案する。12 月 5 日に行われた副学長等と全大会構成員との懇談会の内容も踏まえ、活動予定を設定した。

2. 全大会組織の現状に関して

全大会の現状における問題点について、本会議の出席数及び総合選抜の導入の 2 点から整理する。

① 本会議の出席数

全大会は現在、慢性的な人手不足に陥っており、特に今年度は 12 月までに開催された本会議計 10 回のうち 3 回が流会という事態に至っている。

年度	開催された本会議数	うち流会した本会議数
平成 26 (2014)	15	0
平成 27 (2015)	12	2 (議長団選 1 回を含む)
平成 28 (2016)	9	1
平成 29 (2017)	8	1
平成 30 (2018)	10 (12 月現在)	3 (12 月現在)

(表 1 過去 5 年の全大会における本会議数と流会した本会議数の推移)

表 1 から分かったとおり、ここ数年で異例の多さとなっている。今年 10 月より会議の出席率向上を目指す作業チームによって、各学類・専門学群のクラス代表者会議へ改善要請を行う措置、全大会ホームページに座長団名簿を学内限定で公開する等の措置等を講じているが、未だに十分な数の出席があるとは言えない。

② 総合選抜の導入

平成 33 年度より新たな選抜方式として総合選抜が導入される。これまでの学類・専門学群の枠にとらわれない選抜方式であり、文系（128 名）、理系Ⅰ（154 名）、理系Ⅱ（41 名）、理系Ⅲ（90 名）の 4 区分を設けて選抜し、2 年次に所属する学類を選択する方式を採用する予定となっている。今後全代会として総合選抜入学者など学類・専門学群に属さない学生の意見をどのように受け取っていくかを議論する必要がある。

3. 目指すべき変更案

以上の現状における問題点を鑑み、目指す改善案として総合選抜のクラス代表者会議並びに全代会座長団の定員、選出方法の変更を挙げる。

現行制度では各学類・専門学群で 3 名ずつ座長団を選出している。この中で前述のような人手不足が発生しているため、構成員の選出方法について検討を行う。それにともない制度に変更の必要が生じた場合には、全代会構成員の選出方法を定めている学長決定及び副学長（学生）決定を改正する。

また、総合選抜のクラス制度をもとに、クラス代表者会議の運営方式及び座長団の選出方法を大学側と協議を行いつつまとめる。総合選抜のクラス代表者会議は、構成員が 1 年次のみとなるため、特に入学直後に関してはクラス代表者会議の運営に関しても何らかのサポートが必要となる。その方法についても検討を行った上で定める。